

2021年1月21日

苫小牧市科学センターからミール (Mir) を紹介

今年も次々にロケットが打ち上げられています。すごい展開です。

- ・1月8日(金)にはケープカナベラルからトルコの通信衛星をファルコン9で打上。
- ・1月18日(月)には、モハベ空港から離陸したB-747からランチャーワンが10基の超小型衛星を打上。
(近々YACかわら版で紹介予定)
- ・1月20日(水)には中国の西昌衛星発射センターから通信衛星を長征3B/Eが打上。
- ・1月20日(水)にはニュージーランドマヒア半島からエレクトロン18号機がドイツの小型通信衛星を打上。

野口宇宙飛行士が搭乗したISSは順調に観測を続けています。1月30日(土) 14:30~15:30には「ISSの野口宇宙飛行士」を英語で調べるを予定しています。YAC団員の皆さんの宇宙への関心が高まっています。

現在の宇宙のこのような世界を確実にすすめていたのは、当時のソ連(現ロシア)でした。そのソ連の底力が結晶しているのが苫小牧市科学センターのミールです。

苫小市科学センターの現地から、YACオンライン教室を計画しました。

14 2020年4月2日版

ロシア宇宙ステーション Mirから学ぶ
yackawaraban20200402.pdf (約500KB)

<http://www.yac-j.com/hq/info/yackawaraban.html>

日時：2月6日(土) 16:00~16:45

参加申し込み：参加申し込みは不要です。団員の皆様に視聴URLをお知らせするYouTube限定配信(数日前にURL連絡)となります。仮登録中の団員の方や、有効期限が切れている方へはメールが届きませんのでご注意ください。

配信：北海道苫小牧市／苫小牧市科学センターから

内容：ホンモノ「宇宙ステーション」を探るミール予備機の中継を通して

準備物：「YACかわら版14回」筆記用具

注意：お家の方や分団リーダー等と一緒に参加してください

その他：質問がありましたら次のアドレスから2月5日までに送信ください。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/25b1f6e0682214>

YACかわら版 第14回

ロシア宇宙ステーション Mirから学ぶ

4月2日配信号

苫小牧市科学センターに展示している宇宙ステーション「ミール」を紹介します。

はじめに、どうしてミールが苫小牧にあるのかな？
実は今の苫小牧市長が昔、日本青年会議所の役員を担当していた時に

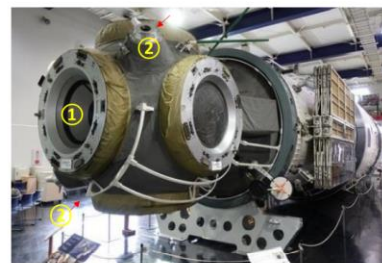
ロシアを訪問し、偶然にもミールを展示され、展示内容が面白かったのか？など聞いています。

ミール (N)

ロシア宇宙ステーションから打ち上げられた。最大のモジュール



©NASA



ミールの前方ドッキングポート

コアモジュール前方(左写真)には操縦席側を前方とすると、上下左右4つのモジュールが接続され、正面のドッキングポート(写真中①)はソユーズが利用し、地球からやってくる宇宙飛行士のための大事な接続部となります。後方には1個のドッキングポートを有しており、宇宙飛行士の生命維持につながる食料などを届けるプログレスの接続部となっています。このようにドッキングは必ず前方あるいは後方のポートを使用しました。それではどの様にして前方の4つのモジュールを接続したのでしょうか。その答えは写真に記されている②のマニピュレーター(赤矢印2カ所)を利用したからです。最初に前方のポートに接続されたモジュールとマニピュレーターは腕金(正確な名称は不明)で接続され、コアモジュールから離れることなくポートの接続替えを行います。実際に簡単な模型を作って確かめてみました。下の写真をご覧ください。ミールコアモジュールと他のモジュールは腕金で接続されています。



② マニピュレーター部の拡大写真



左前方のポートにモジュールが接続された状態



モジュールが左側のポートに移動された状態



モジュールが上部のポートに移動された状態